より脱落。全勝の春ノ翔は魁電との大関対決となり、左を差されながらもかろうじて引き落としで凌いで全勝を守った。

１敗で先頭を追う千代鈴は二敗の美空富士との横綱初挑戦となり、立ち会い横綱の出足をがっちり受け止めると胸を合わせ前に攻め込んで向正面に力強く寄り切って一敗を守った。かたや敗れた美空富士は打ち出し後に休場を発表した。

十日目に大関が勝利した事により優勝争いは、全勝の春ノ翔と一敗で追走する千代鈴の二人に絞られて迎えた千秋楽。

先ずは一敗の千代鈴が朱雀湖と対戦、この一番で千代鈴が破れるとその瞬間に春ノ翔の優勝が決まる大事な取り組みに、ほぼ千代鈴への声援一色になる館内。そんな大一番に慎重な仕切りを続け、行事の「時間です！」の声に立ち上がった両者。その立ち会いを鋭い出足から胸を合わせ前に攻め込んだ千代鈴、土俵中央から体を左に寄せ押し込み土俵際で左を差し朱雀湖には無抵抗のまま力強く寄り切って一敗を守り結びの一番を待つことに。

千代鈴○（寄り切り）●朱雀湖

そして土俵はいよいよ今場所最期の一番、全勝の大関春ノ翔と２敗の関脇佐賀ノ海との千秋楽の取り組みを迎えた。部屋頭の横綱美空富士の休場で、その穴埋めをも担って全勝で優勝を飾りたい大関。一方の佐賀ノ海も大関獲りの場所で昨日８勝目を挙げたが、更にもう一つ白星を重ね昇進に花を添えたいところ。

呼び出しの声に両者が土俵に上がると、優勝のかかる千秋楽の大一番に今場所最大級の声援に揺れる館内。行事の千秋楽の触れのあと慎重な仕切りが続き更に「待ったありません！」の声に立ち上がった。立会いで佐賀ノ海の出足を腰を落として受け止める春ノ翔。その低い体勢から前に攻め込んで左から佐賀ノ海の体を起こすと、更に厳しい攻めで左を差し相手に相撲を取らせず正面土俵に寄り切って見事に全勝優勝を飾った。

その瞬間各親方より優勝を讃える拍手とともに祝福の声が上がり、いつもなら握手を求められるところだが、コロナ禍の影響で過度な密着が自粛されており擬似の握手となったが、桐壺親方からは満面の笑みがこぼれていた。

春ノ翔は一度第１３９回場所で大関から陥落したものの第１４１回場所で大関に返り咲き、その後は二度のカド番を経験しながらも大関に留まり、遂に１３４回場所での平幕優勝に続いて２度目の賜杯を手にした。先々場所と先場所の優勝に準ずる成績に加え今場所の優勝で、いよいよ来場所は綱取りの場所となる。美空富士に続いて更に横綱の誕生となるのか？桐壺親方からの期待も大きいことだろう。

全勝の大関に一歩及ばず賜杯を逃した新入幕の千代鈴。今場所の唯一の敗戦がその全勝の春ノ翔なのだから勝った大関を讃えるしかないだろう。しかし新入幕の場所で千秋楽まで優勝争いを演じて十勝一敗の成績は十二分に賞賛に値する。その一敗はまだ生涯たった３敗目なのだからその潜在能力の高さには驚かされるばかりだ！相撲内容にしても実に安定した取り口で未だ底を見せていない感がある。

この好成績に番付編成の妙も絡んでくるとは思うが、来場所は一気に関脇に昇進かとの声も上がり少なくとも三役昇進は間違いないだろう。来場所はいよいよ上位との総当たりでの位置で土俵を務める事になり、上位陣にとっては戦々恐々といったところか？来場所も令和の怪物から目が離せなくなりそうだ。

先場所の優勝に加え今場所は８勝を挙げ大関当確ラインをクリアした佐賀ノ海、３０を越えてベテランの域に入りながらもここ数場所の安定した成績を残し見事に大関昇進を果たした。３１才での大関昇進は第３７代の綱乃花に並んで、大関最高齢のタイ記録となった。

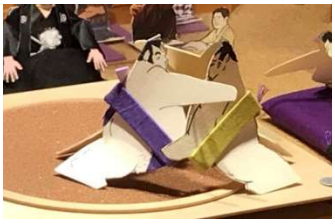
３０を目前にした頃より安定した成績を残し始めた結果がこの日の大関昇進に繋がった様だ。まだまだ衰えを見せないベテランがこの先さらなる活躍を見せて、もう一つ上の頂点に達する事が出来るのか？来場所以降もその土俵に注目したい。

その他の上位陣の結果は七日目まで抜群の安定感で優勝戦線を引っ張っていた横綱美空富士は、八日目からの３連敗で遂に千秋楽を休場し、魁電に大関残留の白星を与える結果となった。二場所連続で優勝を逃しただけに来場所は賜杯奪還に向け、恥ずかしくない相撲を取ってくれる事だろう。

今場所カド番で迎えた魁電は２連敗スタートで心配させたが、運も何もかも味方につけて前代未聞の１場所２不戦勝を拾ってなんとかカド番を脱出した。来場所こそは大関の名を汚さぬ様に躍起になってくるだろう。

平幕では新入幕の千代鈴は記述の通りで、部屋頭の両小結が白星を重ねられず陥落するなか、四枚目で九日目まで優勝に絡む活動で７勝をあげた四季嶋が来場所は三役昇進となるか？三役力士がいなくなり一時の勢いを失った磯ノ海部屋では、七枚目の烏帽子岳が復調を見せ８勝ちを上げ来場所は三役復帰を目指す。

照の王○（寄り切り）●水晶嶽



綱　嵐○（寄り切り）●四季嶋

富士花●（押し倒し）○烏帽子

さらに下位では幕内復帰を果たした照の王が７勝ちを上げ来場所以降も昇格に期待がかかる。入幕以来あと一番が掴めず幕尻に番付けを落とした綱嵐は８勝を上げ、幕内で初めての勝ち越しを決め友砂親方を喜ばせ来場所の活動にも期待が高まる。

そんな一喜一憂する力士の陰で長らく土俵を務めた現役力士最年長の勝間田部屋の阿古耶川が、体力の限界を理由に引退を表明した。最後となった一番は虎ノ國を引き落としに降し「長い間お疲れ様でした！」と惜しみない拍手のなか花道を後にした。引退後は部屋に残り後進の指導にあたる様だ。

虎ノ國●（寄り切り）○阿古耶

春雷が同部屋決戦を制す

（香具山）

コロナ禍の影響で途中二ヶ月半の間が開き千秋楽までの開催が危ぶまれた今場所も、大関の全勝優勝で幕を閉じ協会陣も一安心した事だろう。その優勝を飾った大関の綱取り挑戦、更に新大関の誕生で三大関となる来場所関脇以下の三役陣も総入れ換えの様相、また令和の怪物の今後の躍進と紙相撲ファンにとっては楽しみ満載となることは必至だ。

そんなわくわくする期待を抑えきれない次開催は７月１９日にアナウンスされた。コロナ禍のため延期された影響で残り半年となり残念ながら次の場所が今年最後の場所となりそう。しかしそんなコロナ禍を吹き飛ばすほどの熱戦を繰り広げてくれるであろう土俵に乞うご期待！

十日目まで３敗でトップを並走していた西安と直接対決で雪若丸に敗れた日向藤が４敗となり優勝争いから後退。３敗を守った春雷と雪若丸による決定戦となり、春雷がこれを制して優勝を飾った。

３敗勢で最初に登場したのは日向藤と雪若丸の直接対決。負けた方が優勝争いから脱落するだけに大事な一番となる。前日に同じ九